

2023 年度  
日本ホリスティック教育/ケア学会  
第 6 回研究大会

大会プログラム

会 期:2023 年 6 月 24 日(土)・25 日(日)

会 場:大妻女子大学

## プログラム

### 【1日目】6月24日(土)

12:30 受付

13:00 大会長挨拶 金田卓也 (大妻女子大学)

13:10~15:20 シンポジウム I 「アートがつつむ実践と研究へ」

基調講演 「アートベース・リサーチの可能性」

小松佳代子 (長岡造形大学大学院造形研究科)

指定討論者 小室弘毅 (関西大学人間健康学部人間健康学科)

坂東光有 (坂東流師範・獨協大学外国語教育研究所)

進行 成田喜一郎 (創作叙事詩人・FM ラジオ「TOKYO854」パーソナリティー)

15:30~16:30 ラウンドテーブル

A: 道徳教育としての「宗教的情操教育」の探求に向けて: 「生命や自然、崇高なもの」についての修験者の語りから

河野桃子 (日本大学), 片山恵遍 (KAM INN)

B: 教育と看護における「ホリスティック」コンセプトによる研究レビュー — 日本と欧米における 30 年の動向

吉田敦彦 (大阪公立大学), 青木芳恵 (帝京大学), 福若真人 (阪南大学)

16:40~18:00 アートセッション

16:40~17:05 パフォーマンス

A: 共生の身振りとしてのフラ 祈り・踊り・伝承

孫美幸 (文教大学)

17:10~18:00 ワークショップ

B: 色によって開かれる世界

生井亮二 (武蔵野大学), 佐藤牧子 (目白大学)

17:10~18:00 ワークショップ

C: パネルシアターアートを用いたストーリーメイキング

松家麻記子 (淑徳大学)

16:00~18:00 一般研究発表(展示) (2日目も継続)

A: カタマリと向き合う

佐藤牧子 (目白大学)

B: 持続可能な発展を目指すアートプロジェクト

リラ・バハドゥール・ビシュワカルマ (カレリ中等学校)

金田卓也 (大妻女子大学)

## 【2日目】6月25日(日)

8:40 受付

9:00~9:40 定例総会

9:50~12:20 一般研究発表(口頭)

### **A 群**

9:50~9:55 司会よりオリエンテーション

9:55~10:20

1. 脱植民地の視点から考えるホリスティックな多文化共生教育 孫美幸(文教大学)

10:25~10:50

2. 美術制作における区切りと生成—平和ということへの展開を視座に 生井亮司(武蔵野大学)

10:55~11:20

3. 分断の時代における実存と異文化理解教育—文化相対主義を手がかりとして—  
福田鈴子(常葉大学), 砂子岳彦(武蔵野学院大学)

11:25~11:50

4. 「他者を生きる」こととしての「演じる」こと 宮野祥子(桜美林大学)

11:55~12:20 総合討論

### **B 群**

9:50~9:55 司会よりオリエンテーション

9:55~10:20

1. アントロポゾフィー音楽療法における聴き手の体温測定  
山下恭平(東京理科大学), 森彩花(東京理科大学), 竹田喜代子(アントロポゾフィー音楽療法士の会), 勝田恭子(アントロポゾフィー音楽療法士の会), 井藤元(東京理科大学)

10:25~10:50

2. 世界とつながるアートな体験 佐藤牧子(目白大学)

10:55~11:20

3. 「アート(日本のポピュラー音楽)」を活用した教職課程の学生の「観」の問い直し  
—社会科教育法におけるリフレクションを事例に— 津山直樹(創価大学)

11:25~11:50

4. ホリスティック教育実践における教師のスキル—国際バカロレア教育 Position Paper からの考察—  
菊地恵美子(東北大学)

11:55~12:20 総合討論

**C 群**

9:50～9:55 司会よりオリエンテーション

9:55～10:20

1. 対話主義は何を恢復するか—垂直方向のポリフォニーと水平方向のポリフォニーの観点から  
池田華子 (大阪公立大学)

10:25～10:50

2. ストーリーメイキングの原点—乳幼児におけるパネルシアターの体験— 松家麻記子 (淑徳大学)

10:55～11:20

3. 乳児保育におけるケアの見直し—つながりに注目して— 神谷良恵 (同朋大学)

11:25～11:50

4. T.H.グリーンンの自我実現説における wholeness 概念の探求  
真鍋里彩 (大阪府立大学大学院博士後期課程)

11:55～12:20 総合討論

12:20～13:20 昼休み

13:20～15:30 シンポジウム II 「アートからスピリチュアリティの源へ」

基調講演 「ミュージック・サナトロジーとスピリチュアリティ」

里村生英 (上智大学グリーンケア研究所 (大阪) 非常勤講師・訪問楽師)

指定討論者 中川吉晴 (同志社大学社会学部教育文化学科)

金田卓也 (大妻女子大学家政学部児童学科)

進行 吉田敦彦 (大阪公立大学現代システム科学域教育福祉学類)

15:40～17:00 一般研究発表 (展示) (6/24 に続く)

A:カタマリと向き合う 佐藤牧子 (目白大学)

B:持続可能な発展を目指すアートプロジェクト リラ・バハドゥール・ビシュワカルマ (カレリ中等学校)  
金田卓也 (大妻女子大学)

15:40～17:00 アートセッション

15:40～16:10 演奏

D:アントロポゾフィー音楽療法楽器の体験会 ～聴く、感じる～

勝田恭子 (アントロポゾフィー音楽療法士の会), 山下恭平 (東京理科大学), 森彩花 (東京理科大学)

16:15～17:00 ワークショップ

B (6/24 に続く):色によって開かれる世界 生井亮二 (武蔵野大学), 佐藤牧子 (目白大学)

## <アートセッション>

### 【パフォーマンス】

- ・孫美幸「共生の身振りとしてのフラ 祈り・踊り・伝承」

祈り（オリ）の一つである“E Hō Mai”、ハワイの土地や自然、歴史への尊重を謳った“Mālama Mau Hawai‘i”のフラのパフォーマンスを実演する。その後、風、土地、波、歴史や伝承などを表すパフォーマンスを全員で行い、共生への身振りの可能性について全員で体感を深めたい。

- ・勝田恭子, 山下恭平, 森彩花「アントロポゾフィー音楽療法楽器の体験会 ～聴く、感じる～」

アントロポゾフィー音楽療法研究対象楽器のうち、アルトライアー(低音域の堅琴)と青銅製のゴング(金属の響きの楽器)の演奏を約30分間行う。ライアーは1926年に、ゴングは1980年代にシュタイナーの思想を基に教育や療法のために生まれた楽器であり、人間の「聴く力」をひき出す作用があるといわれている。その響きと余韻、その後の静けさがもたらすものを身体と心で感じとってもらおう。

### 【参加型アートワークショップ】

- ・生井亮司, 佐藤牧子「色によって開かれる世界」

通常の水彩絵の具の中身がわからないようにして2色を選び混色してみる。混色してできあがった色と同じ色をしたものを身の回りから探し出し、写真に撮影し、その画像を集めてコラージュし、お互いのイメージを共有してみる。また、混色した色彩で和紙を染めたり、木片に塗ったりするなど様々な素材への着色を試みしてみる。このワークショップはアートを通して世界を探究するという ABR: Arts Based Research の本質的な部分に繋がるものである。

- ・松家麻記子「パネルシアターアートを用いたストーリーメーカーキング」

貼り絵芝居（パネルシアター）パネルシアターの技法を紹介するとともに、参加者が好きなように絵を描いたり切ったりしてつくった絵や形を貼って遊べる場と材料を用意し、参加者には、自分でつくった絵人形やその場にある絵人形を用いて、好きなように貼ったり動かしたりしてストーリーを生み出す楽しさを体験してもらい、感想をシェアする。

### 【展示】

- ・佐藤牧子「カタマリと向き合う」

造形素材の視点からは、美しく面白く魅力的な素材であるプラスチックのカタマリ（ストロー工場の生産過程で不要になったプラスチック。後にマテリアルリサイクル素材になるカタマリ。）と向き合いながら、このカタマリが語りかけてくることに耳を傾けてみる。そして、教育の場において子どもたちに伝えるべきことは何なのか、考えるべきことは何なのか、改めてホリスティックな視点から見つめ直す機会を持つ。

・リラ・バハドゥール・ビシュワカルマ, 金田卓也

「持続可能な発展を目指すアートプロジェクト」

ネパールのムラバリ村で行っている自然素材を活用した持続可能な村落の発展を目指したアートプロジェクトについてウコンで染めた布など現地で制作したものと共にその制作プロセスを写真展示で紹介する。実際に作られたものを直接触れてみることで、自然素材と手仕事の意義についてホリスティックな視点から考えるとともに、アートによる持続可能な発展の可能性について探る。